

# 語種から見た外来語のイメージに関する 日韓対照研究

梁敏鎬\*

minhoyang@hanmail.net

## Contents

1. はじめに
2. 先行研究及び研究範囲
3. 調査概要
4. 語種の使用度とイメージ
5. おわりに

## Abstract

本研究の目的は外来語のイメージを語種の中から位置付けることによって、外来語が持っている性質を明確に把握することである。日本語と韓国語は同じ語種を持っているので、両者を対照させることによって、そこで、同じ語種の体系を持っている日本語と韓国語を対照させることによって外来語のイメージが明らかになると考えた。そこで各語種の使用実態とイメージについて日本と韓国の大学生のアンケート調査を実施し、その結果を考察した。

調査の結果、日本と韓国ともに高い使用度を示すのは、外来語より漢語や固有語である。しかし、外来語に注目すると日本の方が韓国より使用度が高い。また、語種のイメージについて明らかになったのは次のとおりである。

外来語は「格好いい」「やわらかい」というイメージ、漢語は「丁寧」「上品」というイメージ、固有語は「親しみ易い」というイメージが目立つ。また、日本の場合、外来語、固有語、そして漢語はそれぞれ独立したイメージを持っている。しかも、外来語の場合、韓国に比べて確実に定着していることや良いイメージを持っていることが分かる。一方、韓国では、国語醇化運動などにより固有語と漢語の使用領域の中に、外来語が浸透しにくく、同じ意味であれば、固有語ないし漢語の使用が優先されていることが明らかになった。

**Key Words** : 語種、外来語、イメージ、対照研究

\* 전주대학교 강사

## 1. はじめに

本研究は日本と韓国の外来語が持っているイメージを語種間で位置づけて分析し、明らかにすることが目的である。そのために各語種の使用実態とイメージについて日本と韓国の大学生を対象にしたアンケート調査を実施し、その結果を考察した。

人はことばに対して様々な評価を与える。評価する側面は様々であるが、その面として、語種による評価というものを考えることができるだろう。日高(2001)は「語種の分類は現代日本人にとっても直感的に支持されるものだと思われるが、それはこれらがそれぞれに異なる評価的イメージを喚起することからも確認される。すなわち、和語は『親しみやすい』『やわらかい』『古くさい』『幼稚』、漢語は『格式が高い』『教養が深い』『堅苦しい』『難解』、外来語は『洗練された』『都会的』『新奇』『俗っぽい』などのイメージを喚起しやすい」と述べている。

特に外来語は、他国との接触などにより、自国で使われることばの中に大きな変化や影響を与えるものである。このような状況から現代社会で使われている外来語に関して多角的に調査を試みる価値がある。従って、本考察では漠然として思い浮かべられる外来語のイメージを方言のイメージ調査で使われた方法などを援用して明らかにしたい。

本考察では外来語を比較的最近西洋から入ってきた形容詞系のことば<sup>1)</sup>(以下西洋系の外来語)を外来語としてあらかじめ定義したい。このように西洋系の外来語の形容詞を中心に日本と韓国の大学生のアンケート調査を中心として考察していきたい。

---

1) 多くの外来語調査を見ると調査語が名詞に限られている。特に、語種のイメージ差や外来語の評価に関わる部分に触れるためには名詞より他の品詞の方がよいだろう。なぜならば、名詞の場合、物自体を思い浮かべ、そのイメージと語のイメージが分けにくいからである。そこで、人の感情や属性を表す「な」形容詞の外来語に着目した

## 2. 先行研究及び研究範囲

### 2.1 先行研究

近年、外来語に関する研究は数多く出されているが、研究の方向は実際使われる外来語の使用実態の単純集計や規範意識に関する調査の報告の形式が多い。また、外来語の調査対象の多くは名詞である。一方、戸田(1994)のように形容詞に焦点を当てて調査されたものもある。しかしながら、従来の外来語における研究は、前述したように実態研究であり、深く解明されているとは言い難い。本考察では語種から見た外来語のイメージについて、単純な集計からの考察にとどまらず、より深く掘り下げると同時に、その背景を浮かび上がらせることも試みる。

### 2.2 語種の枠組み

田中(1978)は「一つ一つの語の身元を調べ、語の原籍に基づいて語彙を分けていく分類法を語種分類という。この分類では、すべての語は、まず、本来語と借用語に大別され、借用語は、さらに、それぞれの身元にしがたって細かく分類されていく」と述べた。しかし、日本と韓国に対して、この二分法を適用すると、漢語を本来語と借用語のどのグループに入れればいいのかという問題が生じる。日本と韓国は漢字文化圏であり、漢語は借用語という意識があまりないため、本考察では本来語に入れることにする。次は田中(1978)の語種分類である。

**固有語(和語)**—漢語・外来語に対して、日本本来の語を和語、または、「やまことば」というが、和語とされている語の中にもその起源をさぐれば、朝鮮語起源説や中国語起源説の出されているもの、あるいは、アイヌ語や南方諸言語から移入説のあるものなども含まれている。しかし、こうした起源説や移入説の中には、積極的な論拠の乏しいものが多いため、普通には、古来の語で、漢語意識のないものは、広く和語として扱われている。

**漢語**—漢語は、漢字の字音によって、作られているために、字音語とも呼ばれ

るが、近代中国語から直接はいってきた「マーじゃん(麻雀)」「ラーメン(老麵)」などの語は漢語とはいわない。これらのほか仏教を通じて中国・朝鮮から渡ってきた古代インド語(梵語) 起源の語も、ときには、漢語として扱われる。

**外来語**—借用語全体を「外来語」と呼ぶこともあるが、普通には、借用語の中で、日本語の語彙に最も大きな影響をもたらした、西欧語系のものを指すことが多い。特に、西欧語系の借用語を洋語と呼ぶこともある。入ってきた時期によってポルトガル語源から近代日本語の主流を占めるアメリカ英語語源まで、国それぞれの借用外来語があるが、本研究では、英語語源の外来語のみを対象にしたい。

**混種語**—語種の相異なる要素から成り立つ語は、混種語と呼ばれる。

一方、韓国の김광해(1993) は、語種について「個別語彙素をその起源、すなわち、その出身成分のようなものに基づいて分類したもの」だと述べている。また이희승(1982) 『국어대사전』によると固有語、漢語、外来語についての定義は以下のとおりである。

**固有語**—본디부터 해당 언어에 있던 말이나 그것에 기초하여 새로 만들어진 말. 우리말에서는 외래어나 한자어에 상대하여 이르는 말.(元から該当言語にあったことばやそれにもとづいて新しく作られたことば、韓国語では外来語や漢字語に相対して指すことば)

**漢語**—한자로써 된 말. 한자어(漢字で作られた語、漢字語)

**外来語**—외래어 외국으로부터 들어온 말이 국어속에 파고 들어 익게 쓰여지는 말(국어화한 외국어, 차용어) (外国から入ってきたことばが 国語の中に放り込まれ慣れて使われることば国語化した外国語、借用語)

このように韓国での漢語とは、以上に定義されたように、「漢字で作られた語」である。そこで、調査語の一つである「浪漫的な」も本考察では漢語として見なした。これらの枠組みや定義を総合し、本考察における語種の定義は日本と韓国の両者について田中(1978) の定義を援用して考えたい。また、韓国にも日本と

同じく混種語は存在するが、本考察では外来語のイメージに焦点を当てているため、除外とする。

## 2.3 外来語の範囲

外来語は研究者によって指す範囲が違う。主に日本語では、外来語とは外国から日本語の中に入ってきたことばのことをいう。楳垣(1963)は「外来語とは外国語の語句を自国語の中に借り入れて使用が社会習慣化したもののである。」と定義している。特に、西洋の言語から日本語の中に入ってきたことばが外来語であることについては、ほとんど問題なく、外来語として呼ばれている。ただし、問題は、中国語から日本語の中に入ってきたことばをどう扱うかであるが、本考察では対象外とする。

一方、韓国でも리의도(1993)は、「외래어와 외국어의 개념을 구분하기도 하지만 그구분은 말만큼 간단하지 않다. 담배 가방 알콜 텔레비전 라디오 구두 아나운서 로터리 뉴스 인상 디자인 채널 다다미 뷔페 디스크 프린터 할증료 다큐 멘터리 텔런트 사양 프리랜서 냅킨 우동 비디오케 와이프 델리케이트한... 들에서, 대체적으로 볼 때에는 앞쪽에 것일수록 이른바 외래어에 가깝고 뒤로 갈수록 외국어에 접근하고 있다. 그러나 그 가운데 어디를 잘라서 외래어와 외국어를 구분지어야 할지 개관적인 기준을 제시하는 것은 그리 쉬운일은 아니다. 그리고 일반적으로 외래어(차용어 Loan word)라 하여 국어 어휘의 일부로 인정하는 것 가운데에도 순화의 대상으로 삼지 않을 수 없는 것이 있다. 그래서 외국어로 일컫는다.(外来語と外国語の概念を区分したりするが、その区分は話ほど簡単ではない。煙草、カバン、アルコール、テレビジョン、タレント、うどん、ワイフ、デリケートな(申略)の中で、大まかに見ると、最初に挙げた例ほど外来語に近くて、後ろに行けば行くほど、外国語に接近している。しかし、その中で、外来語と外国語をどこで区分するかの客観的な基準を提示するのはそれほど簡単ではない。そして、一般的に外来語(借用語)として国語の一部で見なすことばの中でも純化の対象にしなければいけないものがある。それで、いわゆる外国語として呼ばれる。p.17)」ように述べ、「外来語と外国語の明確に区分する

のは難しい」と述べた。

このように外来語に関する範囲設定は様々であるが、本考察では、外来語の定義を楳垣(1963)の「外来語とは他国語の語句を自国語の中に借り入れて使用が社会習慣化したもののことである。」という基本的な定義に準じて論を進めていきたい。さらに、本考察で述べる外来語とは「英語語源の「な」形容詞の外来語」に限定する。

### 3. 調査概要

本考察で扱っている調査の調査対象者は日本と韓国の大学生である。調査対象者の選定においては、ランダム・サンプリングではなく、任意標本抽出方法を用いた。また、本調査の項目を決めるために2003年6月から8月にかけて予備調査を行った。その調査に基づき、調査語彙を選んだ。本調査の際に一番問題になったのは、外来語、本来語(漢語・固有語)の選定とそのことばのイメージ評価語の選定の基準と、その絞り方であった。

#### 3.1 調査対象

本調査は2003年9月から10月にかけて、韓国と日本でアンケートを行った。

<表1> 調査対象者の構成(%)

	男性	女性	不明	合計
日本	49(23.9)	155(75.6)	1(0.5)	205名
韓国	91(35.7)	163(63.9)	1(0.4)	255名

調査対象者の選定について、日本では、東京都と千葉県の5つの大学(205名) - 東京外国語大学・東京学芸大学・駒沢大学・明海大学・神田外語大学の大学生または大学院生を対象にした。また、韓国ではソウル、京畿所在の4つの大学(255名) - 東国大学校・カソリック大学校・中央大学校・京畿大学校の大学

生を対象にした。

### 3.2 調査内容

アンケート調査内容は大きく、「言語行動に関する意識項目」、「外来語のイメージ調査項目」、「フェイス項目」の3つに分けることができる。本考察では語種イメージに着目しているため、「外来語のイメージ調査項目」に絞って考察を進めていきたい。「外来語イメージ調査項目」とは、調査の対象とする外来語とそれに対応する漢語、固有語、計30語の調査語彙7対のイメージ語項目を指す。また、それらの語について、イメージを尋ねる評価語(7対14語)と使用状況を尋ねる項目1つの計8項目の評価語である。さらに、的確なイメージ評価が与えられるように、評価語彙及び調査語彙の選定については3.2.1のように行った。

#### <アンケート調査項目>

- I 「言語行動に関する意識項目」- 外来語の使用意識、言語行動及、パーソナリティーに関する項目など
- II 「外来語のイメージ調査項目」- 外来語とそれに対応する漢語または固有語の使用実態とイメージ評価
- III 「フェイス項目」- 性別、年齢、学年、専攻、出身地、外国滞在の経験

#### 3.2.1 イメージ評価項目の選定

佐藤(2001)は「ある意識や意見、行動を支えている背景を知るには、イメージを重ねてみるのが有効である」と述べた。このような、ある事柄や事象が担っている意味を確かめるために使われる心理的な手法にSD法(Semantic Differential method)がある。この手法は「良い-悪い」「きれい-きたない」「明るい-暗い」といったように、対立する形容詞を用い、その事象がどういう意味やイメージを担っているのかを明らかにする方法である。

予備調査で199個の評価語を収集し、国立国語研究所(2003)『分類語彙表』などを使って調査項目を選定した。その中から本調査でふさわしい評価語は、井上(1989)の方言イメージで明らかになった3因子の項目から1つずつ抜き出した。

さらに、外来語イメージ調査に当てはまるように、多少ことばを変えたものを入れて再構成した評価語は次のとおりである。

<イメージ評価語(7対)>

**情的評価** : ぞんざい(거칠다) - 丁寧(정중하다)、親しみ難い(친근감없다) - 親しみ易い(친근감있다)

**知的評価** : 非実用(비실용적이다) - 実用(실용적이다)、くどい(장황하다) - あっさり(간결하다)

**洗練評価** : 下品(품위없다) - 上品(품위있다)、ださい(촌스럽다) - かっこいい(멋있다)、固い(딱딱하다) - 柔らかい(부드럽다)

下線が引いてある語彙は評価語を変えたものである。また、四角に囲まれた語は井上(1989) で抽出された語である。何も印が付けられていない語は本考察で新しく使った評価語である。

### 3.2.2 調査語彙の選定

調査語彙は基本として12個の外来語を選定し、同義<sup>2)</sup>の語種を相対的に検証する。(ただし、固有語の場合は対応する同義語がないため6個になる)

調査語彙の外来語の選び方は、まず、佐々木・渡部(2001) の『違いを覚える上級形容詞』に載っている55語の外来語と戸田(1994) の外来系「な」形容詞(306語)のうち、両論文に共通したものを選んだ。そのうえ、戸田(1994) の使用率の基準に基づいて低(3割以下)・中(3割~7割)・高(7割以上)の3つのグループに分け、共通した外来語を4語ずつ選び、調査した。また、漢語と固有語の選定は、選定した12外来語をもとに、漢語と固有語の類義語を全部書いてもらった予備調査からインフォーマント間で一致度が高い言い換え語を選んだ。

2) 本考察での同義とみなす基準では、外来語から漢語と固有語に書いてもらった候補の中、一致率が高いものを同義語の対象とする。ただし、同じ同義語であっても日本と韓国で恥かしがりや의(부끄러워하는)のように品詞が異なるものも存在する。



<調査語彙の一覧>

**外来語(12語)** - アカデミックな(아카데미한)、アクティブな(액티브한)、アグレッシブな(어그레시브한)、インターナショナルな(인터네셔널한)、クリアな(클리어한)、クリーンな(크린한)、コンサバティブな(컨서버티브한)、シャイな(샤이한)、スマートな(스마트한)、フレキシブルな(플렉시블한)、ルーズな(루즈한)、ロマンチックな(로맨틱한)

**漢語(12語)** - 学問的な(학문적인)、活動的な(활동적인)、攻撃的な(공격적인)、国際的な(국제적인)、清潔な(청결한)、怠惰な(나태한)、透明な(투명한)、保守的な(보수적인)、明確な(명확한)、融通性がある(융통성있는)、利口な(영리한)、浪漫的な(낭만적인)

**固有語(6単語)** - 賢い(현명한)、きれいな(깨끗한)、透き通った(맑은)、だらしがない(단정하지 못한)、恥かしがりやの(부끄러워하는)、はっきりした(뚜렷한)

## 4. 語種の使用度とイメージ

### 4.1 調査語の使用度

日本と韓国で行ったアンケートの結果の外来語と漢語と固有語の使用度について説明する。本考察で扱っている使用度とは調査結果にもとづいて算出したものである。調査した30語について、「使う」「聞いたこともあり、意味も分かるが使わない」「聞いたことはあるが、意味は分からない」「聞いたことがない」のように4段階に区分した。また、調査語を語種ごとに分けるため、記号を付けて分かりやすくした。

漢語(□)と固有語(※)そして外来語(円形)に分けた。また、外来語は、本考察のメインのテーマであるため、外来語を使用度によって3つに下位分類した。外来語の中で、使用度が一番低いグループには単純な丸形(○)を、中グループには、二重丸(◎)を、最後に一番使用頻度が高いグループには黒丸(●)の記号を与えた。また、各語の使用状況について、ここで取り上げた30調査語に対して、前述した4段階を点数化した。「使う」と答えた人は1点、「聞いたこともあ

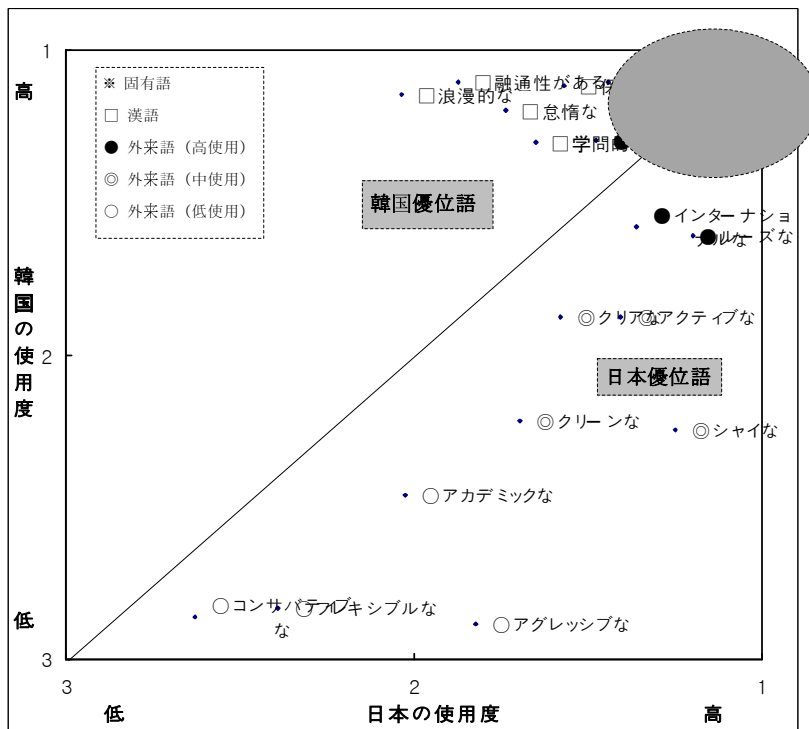
り、意味も分かるが使わない」は2点、「聞いたことはあるが、意味は分からない」と答えた人は3点、最後に「聞いたことがない」と答えた人は4点を付けてもらった。得点の平均を各語について求め、表2に示した。

<表2> 日本と韓国における調査語彙の使用度(点)

番号	語彙	日本	韓国
1	○アカデミックな	2.02	2.46
2	◎アクティブな	1.41	1.87
3	○アグレッシブな	1.82	2.88
4	●インターナショナルな	1.36	1.58
5	□学問的な	1.65	1.30
6	※賢い	1.14	1.06
7	□活動的な	1.41	1.07
8	※きれいな	1.06	1.06
9	◎クリアな	1.58	1.87
10	◎クリーンな	1.70	2.22
11	□攻撃的な	1.38	1.11
12	□国際的な	1.17	1.11
13	○コンサバティブな	2.63	2.86
14	◎シャイな	1.25	2.25
15	※透き通った	1.44	1.10
16	●スマートな	1.48	1.30
17	□清潔な	1.15	1.13
18	□怠惰な	1.74	1.20
19	※だらしない	1.07	1.23
20	□透明な	1.30	1.11
21	※恥かしがりやの	1.27	1.07
22	※はっきりした	1.06	1.12
23	○フレキシブルな	2.39	2.83
24	□保守的な	1.57	1.12
25	□明確な	1.29	1.10
26	□融通性がある	1.87	1.11
27	□利口な	1.32	1.11
28	●ルーズな	1.20	1.61
29	□浪漫的な	2.03	1.15
30	●ロマンチックな	1.19	1.16
平均		1.50	1.51

表2は、使用度の質問に答えた人の使用の得点と平均点を表にしたもの(以下、使用度)である。そのうち、一番濃く塗りつぶされた部分の使用度が一番高く、多少薄く塗りつぶされた部分が中間程度の使用度を意味している。陰影がかかっていない部分は使用度が一番低い語彙群である。表から全体的に塗りつぶされた部分を見て外来語より漢語や固有語の方が多い。語彙全体的に見て、使用度に関する質問に対し、答えた平均を見た限りでは日韓で差が見られなかった。

この表2を分かりやすく説明するために、図1のように散布図を作成した。散布図の読み方は右上の方向にいくほど、両国での使用度が高くなることを意味する。ただし、使用度が極めて低い語は両国間の差があまり見られなかったので楕円形で囲んで処理した。



<図1> 日本と韓国における調査語彙の使用度(点)

図1を見ると、日本と韓国を大きく見て、外来語使用より漢語や固有語の使用が高いことが分かる。しかしまた、外来語に注目すると、図の右上から左下におろした対角線に対して、外来語の使用度はほとんどその右下となっていることが分かる。このことから、日本の方が韓国より外来語の使用が高いと言えるだろう。また、日本と韓国両国で、外来語、漢語、固有語の単語ごとに使用度にとどの程度の差があるのか、語種ごとに分類して考えてみたい。

#### 4.1.1 漢語の使用度

漢語の使用度について表3に示す。

<表3> 漢語の使用度

番号	語彙	日本	韓国
17	<input type="checkbox"/> 清潔な(청결한)	1.15	1.13
12	<input type="checkbox"/> 国際的な(국제적인)	1.17	1.11
25	<input type="checkbox"/> 明確な(명확한)	1.29	1.10
20	<input type="checkbox"/> 透明な(투명한)	1.30	1.11
27	<input type="checkbox"/> 利口な(영리한)	1.32	1.11
11	<input type="checkbox"/> 攻撃的な(공격적인)	1.38	1.11
7	<input type="checkbox"/> 活動的な(활동적인)	1.41	1.07
24	<input type="checkbox"/> 保守的な(보수적인)	1.57	1.12
5	<input type="checkbox"/> 学問的な(학문적인)	1.65	1.30
18	<input type="checkbox"/> 怠惰な(나태한)	1.74	1.20
26	<input type="checkbox"/> 融通性がある(융통성있는)	1.87	1.11
29	<input type="checkbox"/> 浪漫的な(낭만적인)	2.03	1.15
平均		1.49	1.14

表3に示したように、漢語の場合は両国での使用度の差が見られる。日本の平均が1.49で、韓国は1.14であった。この数値は低いほど使用度が高い。これらの結果は、韓国が日本より、漢語の使用が高いと言える。特に、この漢語の中で、「浪漫的な」という語彙は、日本で「当て字・熟字訓」<sup>3)</sup>のように扱われ、他の調査語彙とは多少異なった性格を持つ漢語である。一方、韓国と中国<sup>4)</sup>では日

3) 阿辻哲次・釜谷武志・林原純生 2001 『現代漢字語辞典』角川書店

本より漢語としての意味合いが強い。このような側面から、多少の違いが生じるのはやむを得ない。

#### 4.1.2 固有語の使用度

固有語の使用度について表4に示す。

<表4> 固有語の使用度

番号	語彙	日本	韓国
8	※きれいな(깨끗한)	1.06	1.06
22	※はっきりした(뚜렷한)	1.06	1.12
19	※だらしない(단정하지못한)	1.07	1.23
6	※賢い(현명한)	1.14	1.06
21	※恥かしがりやの(부끄러워하는)	1.27	1.07
15	※透き通った(맑은)	1.44	1.10
平均		1.18	1.11

表4に示したように、日本の平均が1.18で、韓国は1.11であった。これらの結果から、固有語の場合は、漢語に比べて日本と韓国で大きな差は見られなかったと言える。

#### 4.1.3 外来語の使用度

外来語の使用度について表5に示す。外来語の場合、漢語のように使用度に差があらわれた。

表5に示したように、日本で平均1.67、韓国では平均2.07になった。この結果は漢語の使用度と、オモテウラの結果である。韓国より日本の方が外来語の使用が高いと言える。また、外来語の場合、日本と韓国ともに使用度が高い上位で使われている語の相当の部分が重なっていることが分かる。

戸田(1994) の調査と比べて、外来語の使用度において(「インターナショナルな」と「シャイな」) の2語に変化が見られた。「インターナショナルな」という単語

4) 「ロマンチックな」の中国式表記は「羅曼蒂克」で、「浪漫的な」は「浪漫的」に表記している。

は、使用度が中位から上位に上がっていることが分かる。この理由として、社会が国際化・グローバル化されていく過程の中で、話題になり、また、取り上げられる頻度も高くなったことが考えられる。

＜表5＞ 外来語の使用度

番号	外来語	戸田(1994)	日本	韓国
30	●ロマンチックな(로맨틱한)	高	1.19	1.16
16	●スマートな(스마트한)	高	1.20	1.61
4	●インターナショナルな(인터네셔널한)	中	1.25	2.25
28	●ルーズな(루즈한)	高	1.36	1.58
9	◎クリアな(클리어한)	中	1.41	1.87
2	◎アクティブな(액티브한)	中	1.48	1.30
10	◎クリーンな(크린한)	中	1.58	1.87
14	◎シャイな(샤이한)	高	1.70	2.22
1	○アカデミックな(아카데미한)	低	1.82	2.88
23	○フレキシブルな(플렉시블한)	低	2.02	2.46
13	○コンサバティブな(컨서버티브한)	低	2.39	2.83
3	○アグレッシブな(어그레시브한)	低	2.63	2.86
平均			1.67	2.07

一方、「シャイな」という単語は、多少頻度が下がったと言える。このように最初30語の平均は類似しているように見えたが、実際、語種によって調べた結果、日本と韓国で差が見られたのは興味深いことだと思われる。これまで述べたことを表6にまとめた。

表6は外来語と漢語そして固有語の順に同意語(語種別)別に示したものである。優位な語種に陰影を施した。基本的に日韓ともに同じ意味をあらわすときに、外来語より漢語や固有語を好むことが語種の平均使用度から読み取れる。ただし、語によっては少し異なるものもある。

日本の場合、「シャイな」という外来語は「恥ずかしがりやの」の固有語より好まれる例もあるが、韓国では外来語が好まれる例は一語もない。ただし、韓国では「ロマンチックな」という外来語が「浪漫的な」という漢語と同じぐらいの使用度である。一方、日本では「浪漫的な」という漢語はほとんど使われていないことが分かった。

<表6> 語種による調査語の使用度

番号	外来語	日本	韓国	漢語	日本	韓国	固有語	日本	韓国
1	○アカデミックな	2.02	2.46	□学問的な	1.65	1.30			
2	◎アクティブな	1.41	1.87	□活動的な	1.41	1.07			
3	○アグレッシブな	1.82	2.88	□攻撃的な	1.38	1.11			
4	●インターナショナルな	1.36	1.58	□国際的な	1.17	1.11			
9	◎クリアな	1.58	1.87	□透明な	1.30	1.11	※透き通った	1.44	1.10
				□明確な	1.29	1.10	※はっきりした	1.06	1.12
10	◎グリーンな	1.70	2.22	□清潔な	1.15	1.13	※きれいな	1.06	1.06
11	○コンサバティブな	2.63	2.86	□保守的な	1.57	1.12			
14	◎シャイな	1.25	2.25				※恥かしがりやの	1.27	1.07
16	●スマートな	1.48	1.30	□利口な	1.32	1.11	※賢い	1.14	1.06
23	○フレキシブルな	2.39	2.83	□融通性があがる	1.87	1.11			
28	●ルーズな	1.20	1.61	□怠惰な	1.74	1.20	※だらしない	1.07	1.23
30	●ロマンチックな	1.19	1.16	□浪漫的な	2.03	1.15			
平均	外来語の使用度	1.67	2.07	漢語の使用度	1.49	1.14	固有語の使用度	1.18	1.11

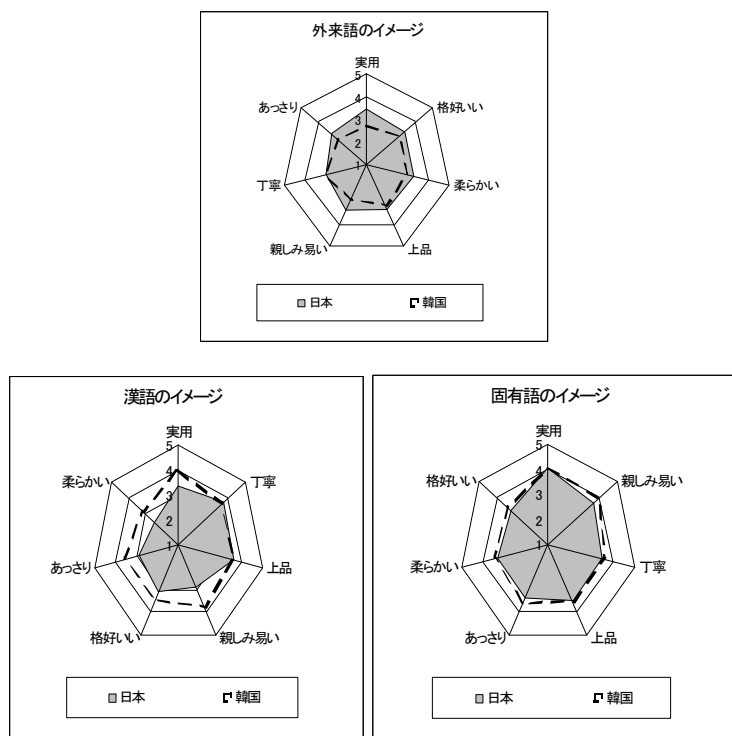
以上をまとめると、韓国では、漢語や固有語の使用が外来語の使用を上回っていることが分かった。一方、日本でも、漢語や和語の使用度が高いものの、使用度から見て、外来語の使用もそれなりに高いことが分かった。

## 4.2 語種イメージ

同じ意味を表す語には、同義語、類義語もしくは語種(漢語・固有語・外来語)によって様々なバリエーションがある。特に日韓ではこのような語種の違いから、そのことばか持っているイメージ評価も変わっていくと考えられる。そこで、同じ意味を表す語に対し、語種ごとにイメージ分析を行いたい。

### 4.2.1 語種別イメージ

語種ごとのイメージを分かりやすく説明するために「レーダーチャート」を描いた。「レーダーチャート」の多角形の形や大きさから語種ごとのイメージ評価の特徴をつかむことができる。30調査語の7対のイメージ評価平均値を、さらに語種別に平均して示したものが図2である。図2は大きく外来語、漢語、固有語に分けて示してある。



<図2> 語種別イメージ

図2の語種別イメージから分かるように、全語種にわたって「実用的」というイメージが強くあらわれた。しかし、先行研究で指摘したように、語種別イメージ評価は異なっていることが確認できた。

外来語の場合「格好いい」「やわらかい」「上品」というイメージが、漢語の場合「丁寧」「上品」というイメージが、そして固有語の場合「親しみ易い」「丁寧」というイメージが上位にあらわれている。このように語種に対する異なる評価から外来語、漢語、固有語が持っている性質が読み取れる。石野(1983) は「外国から入ってきたことばである外来語は気取っている印象もあり、外来語を使うことで、ほかの手段では得られない特別な効果を上げていることは間違いない。これが一種のスタイルとして通用している。外来語の使い方はいずれも外来語の知的側面<sup>5)</sup>

5) 石野(1983) によると外来語に限らず、すべての語には知的側面と情緒的側面がある。知的側面は、普通に“意味”を伝える機能と言ってよいだろう。何らかの対象を指し示す“指示機能”だ



でなく、情緒的側面をより強く意識した用法だと言えるだろう」と述べている。

このように情緒的側面が強い外来語は「格好いい」「やわらかい」というイメージが目立つ。一方、比較的古いことばである漢語は主に改まった場面で使われたり、難解な文脈にあらわれたりして「丁寧」「上品」というイメージが浮き彫りになったと考えられる。また、昔から存在し、使われてきた多くの基本語彙が固有語であることから「親しみ易い」というイメージが強くあらわれたと推察できる。

以上、語種別に分けてイメージを分析した。次は日本と韓国に分けて語種イメージを分析していきたい。

#### 4.2.2 日本と韓国の語種イメージ

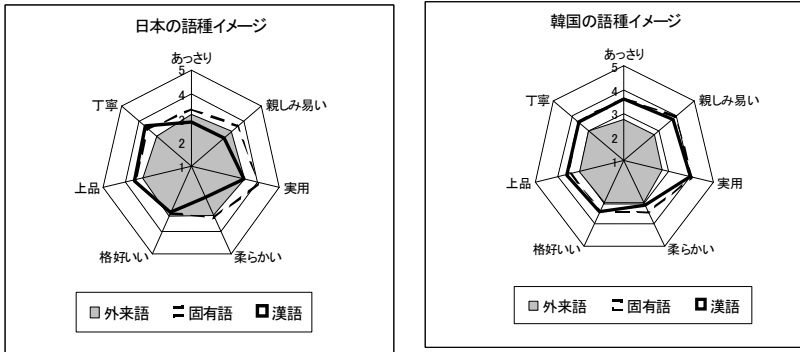
図3は図2の語種別イメージを国別に分けて作成した「レーダーチャート」である。この図3から分かるように、日本の場合、三本の語種が相互に影響されず、個別的なイメージを形成している。すなわち、外来語、固有語、そして漢語が、各々独立し、イメージ化されているのが分かる。つまり、外来語についても、独立したイメージを持っていて、一つの語種として定着していることが分かる。

一方、韓国での語種イメージを見ると、外来語と固有語・漢語のように二つの枠としてイメージ群が形成されているのが分かる。さらに、ことばの評価意識について固有語・漢語に対するイメージ評価がほとんど重複している。また、固有語や漢語の線の範囲が外来語の範囲を完全に外枠として包んでおり、外来語に対する評価が全体的に低いことが分かる。

これは日韓における表記上の問題に起因している。日本の場合、カタカナで表記した語は外来語であると判断することができる。また、固有語は主にひらがなで、漢語の場合は漢字で書かれるといったように、語種により異なる表記が用いられる。

---

ということにしておこう。情緒的側面は話し手＝聞き手が、そのことばの指し示す対象なり、あるいはことばそれ自体に対してする思い入れである。



<図3> 日韓における語種イメージ

しかし、韓国では、漢語と固有語、さらに外来語までも、全部ハングルで表記するしかない。勿論、漢語を漢字で書く場合<sup>6)</sup>も少なくないが、日本ほど頻度ではない。そのため、韓国では三種類の語種の区別が日本に比べて明確に持たれにくいと思われる。また、韓国では、国語醇化運動のように政府主導の動きが続いており、外来語の使用率が低く、外来語が良くも悪くも目立つ存在であるということが外来語だけイメージが低い結果になったと考えられる。

表記の問題に関しては今後の課題にしていきたいが、語種ごとの使用領域から見て、韓国では固有語と漢語の使用域の中に、外来語が浸透しにくく、同じ場面、同じことばであれば、固有語ないし漢語の使用が目立つ。このことも、日本と韓国で表れる外来語と固有語そして漢語、すなわち語種による評価の差に影響を与えたと考えられる。

## 5. おわりに

本研究から明らかになったことを次のようにまとめる。

日本と韓国ともに高い使用度を示すのは、外来語より漢語や固有語である。しかし、外来語に注目すると日本の方が韓国より使用度が高い。

6) 韓国では2005年から再び大学入試に漢字が試験科目として入り、注目度が高まっている。

語種のイメージについて明らかになったのは次のとおりである。情緒的側面が強い外来語は「格好いい」「やわらかい」というイメージが強く、改まった場面で使われている漢語は「丁寧」「上品」というイメージが上位に位置し、基本語彙の中に多く存在する固有語は「親しみ易い」というイメージが上位にあらわれた。

また、日本の場合、外来語、固有語、そして漢語はそれぞれ個別的に独立したイメージを持っている。しかも、外来語の場合、韓国に比べて確実に定着していることや良いイメージを持っていることが分かる。一方、韓国の場合、国語醇化運動などにより固有語と漢語の使用領域の中に、外来語が浸透しにくく、同じ意味であれば、固有語ないし漢語の使用が優先されている。

上記のように、本研究は語種から外来語のイメージを明らかにしたものである。そのうえ、日本と韓国の外来語の使用度とイメージを対照することにより、異なる文化的背景を持っている両国の外来語に関する受容態度が少し把握できたと思う。

今回の調査では、語種のイメージ差や外来語の評価に関わる部分に触れるために名詞より「な」形容詞系外来語に絞った。なぜならば、名詞の場合、物自体を思い浮かべ、そのイメージと語のイメージが分けにくいからである。ただし、今後、大部分を占めている名詞を含む語種全体に視野を広げて考えてみたい。また、外来語の表記のゆれや外来語と相当する漢語・固有語との意味・ニュアンスの違いについても掘り下げて研究を進めていきたい。

#### 参考文献

- 石野博史(1983)『現代外來語考』、大修館書店、pp.38~44  
 石綿敏雄(2001)『外來語の総合的研究』、東京堂出版、p.7  
 井上史雄(1989)『ことばづかい新風景(敬語と方言)』、秋山叢書、pp.203~208  
 榎垣實(1963)『日本外來語の研究』、東京研究社、p.10~11  
 国立国語研究所(2003)『分類語彙表一増補改訂版一』国立国語研究所、p.120  
 佐々木端枝/渡部孝子(2001)『違いを覚える上級形容詞』、アルク、  
 佐藤和之(2001)「意識調査と計量的研究」『日本語の計量研究法—日本語學4月臨時増刊号 Vol.20』、明治書院、p.52

- 柴田武(1988) 「ことばのイメージ」金田一春彦/林大/柴田武 編 『日本語百科大事典』、大修館書店、p.382
- 陣内正敬(2007) 『外來語の社會言語學』、世界思想社、p.136
- 田中章夫(1978) 『國語語彙論』、明治書院、pp.127~139
- 田中牧郎(2006) 「現代社會における外來語の實態」 『外來語と現代社會』、國立印刷局、pp.38~46
- 戶田利彦(1994) 「外來語に關する基礎的研究(Ⅲ) 話しことばにおける「な」形容詞の使用實態一」、比治山大學現代文化學部紀要3、比治山大學現代文化學部
- 日高水穂(2001) 「ことばとイメージ」ダニエル・ロング・中井精一・宮治弘明編 『応用社會言語學を學ぶ人のために』、世界思想社、pp.26~33
- 梁敏鎬(2008) 「外來語の受容と定着に關する研究—日本と韓國の對照研究を中心に—」 『第2回博報「ことばと文化・教育」研究成果報告書』、博報兒童振興會、pp.15~18
- 리의도(1993) 『오늘의 국어, 무엇이 문제인가?』, 어문각, p.17
- 이희승 (1982) 『국어대사전』, 민衆書林, p.1606

- ❖ 투고일 : 2009. 1. 22
- ❖ 심사일 : 2009. 2. 6
- ❖ 심사완료일 : 2009. 2. 10